

2004年（平成16年）8月20日 第32号  
 ■編集：土屋品子後援会編集部  
 ■発行：土屋品子後援会  
 〒344-0062 春日部市粕壁東1-8-15  
 TEL.048-761-0475 FAX.048-763-3475

2004.Vol.2

土屋品子ホームページ OWLS NET WORK  
<http://www.owls.co.jp>

# ヌーベル3



石原国土交通大臣に陳情

## 国土交通専任部会長として

**終**盤になって年金改革法案や拉致家族や核の脅威を中心に北朝鮮政策が大きくクローズアップされた、第156回通常国会が終了し、続く参議院選挙において自由民主党にとっては、厳しい審判がなされた選挙結果となりました。

参議院埼玉県選挙区では3議席中2議席が自民党を含む与党で確保することができました。何とか皆様のご支援によって、民主党の2議席は阻止しましたが、全国的に見ますとかなり厳しい状況となりました。内閣支持率も徐々に下降傾向にあるといわれていますが、まだまだ改革途中にあるわけで、説明不足を解消しながら将来安心して暮らせる日本をつくるために、自由民主党も頑張っていかなければならないと思っています。

そこで現在、私が重要だと考え

ている町村合併について、三位一体の改革との関連から少し話をします。政府は7月4日の閣議で、経済・財政運営の基本方針となる「骨太方針2004」を決定しました。その中で、国と地方の税財政改革、いわゆる三位一体の改革で、2006年度までに国から地方自治体への財源移譲について「おおむね3兆円規模を目指す」と明記しています。今後2年間で、補助金削減と税源移譲を一体で進めることを打ち出したわけですが、去る6月18日に三位一体の改革要旨が発表されたように、第一に、事業費を徹底的に見直し、補助金は4兆円をメドに廃止・縮減し、公共事業関係の補助金も改革するとしています。第二に、地方交付税の改革で総額抑制や人員減を目指すとしています。そして第三に、補助金削減額の8割程度を目安に税源を移譲するとして、先程記述し

たように、約3兆円の税源移譲をし、義務的な事業については、徹底的に効率化した上で必要な金額を地方に移譲し、課税自主権も拡大するとしています。私、土屋品子も与党の一員として、また党の国土交通部会運輸専任部会長として骨太の方針を承認した責任を重く受け止め、この改革を着実に進めていきたいと考えています。

さて一方、改革の受け皿となる地方自治体ですが、行政基盤の強化に不可欠なのが、市町村合併であると確信しています。来年の特例債発行期日に間に合うよう多くの自治体が合併協議をしていますが、最後に来て足踏み状態になっているところが

多く出てきました。合併の難しさを感じるこの頃ですが、一つだけ主張したいのは、これからの世代を担う子供たちの将来を考えて、私たちは行動するべきだと言う事です。

今後も、構造改革を積極推進するとともに、新しい政治システムの構築に向けて、私土屋品子は頑張っまいますので、応援よろしくをお願いします。



初の女性参議院議長 副議長に挨拶

# 公共交通機関をもっと安心で便利なものにしましょう

**み** さんのなかには、ご自身やまわりの方で電車やバスなどの公共交通機関を利用して、長い階段やホームと乗り物との段差、トイレの使いづらさなどで不便な思いをしたことのある方、また、そのために出かけるのが不安で億劫に感じられた経験のある方も多いのではないのでしょうか。

日本は、2015年には国民の4人に1人が高齢になると見込まれています。高齢化社会を控え、高齢者や身体に障害を持った方が安心して、積極的に社会・経済活動に参加できるような社会を整えること、そのために公共交通機関において、安全性や利便性への配慮が不十分なところを改善し、移動を円滑にできるようにすることが急務であるといえます。

このような考えから2000年11月「交通バリアフリー法」が施行されました。バリアフリーとは、障壁（バリア）を取り除く（フリー）という意味です。以後、

今日まで全国で国と地域そして交通機関を運営する会社が一体となってこの「交通バリアフリー化」が進められてきました。私も昨年より自由民主党の国土交通運輸担当専任部長として、交通バリアフリー予算出しに直接携わるようになり、迅速な対応の必要性を感じ、精一杯努力してきました。

バリアフリー化の一環として身近なところで東武伊勢崎線春日部駅を例にあげてみましょう。春日部駅では6月、各ホームから西口出口へつながる浅草駅寄りの跨線橋ができたばかりです。また今年の秋には車椅子対応のエレベーターが4台完成する予定です。この設置工事には国土交通省と春日部市からも予算がでています。みなさんの税金によってなりたつ予算は、みなさんのよりよい生活を公平に実現するために使われなければなりません。今後ともしっかりと勉強してがんばってまいりますので応援宜しくお願いします。



**7** 月30日、地元の三枝春日部市長と隣町の石原庄和町長、そして近隣自治体職員の方とともに、外郭放水路の早期完成に向けた陳情を国土交通省に対して行ってきました。今回の新潟・福島や福井県の台風による水害状況を見ても、いかに予防的な措置として地下を流れる川である「外郭放水路」が目には見えなくても大切な公共事業であるかを、目の当たりにしたと思っています。水害が起きてからでは、未曾有の被害になることが予測される地域に水量調整のできる地下の川がいかに重要であるかを再認識しましたので、これからも地道に完成に向けた努力をしていきたいと考えています。

また、8月の11日には、春日部市長はじめ地域住民代表の方々とともに、春日部駅周辺の連続立体交差事業の予算化に向け、国土交通省に対し陳情を行いました。これも念願の事業であり、国はもとより東武鉄道に対しても粘り強く要請をしているところです。この事業に関しては、調査費を国土交通省から捻出してもらうところ

から、地元衆議院議員として唯一継続した活動を市長はじめ住民代表の方々とともに取り組んできただけに、党の国土交通専任部長としても強力に関係部署をお願いをしています。

最後に、地下鉄7号線の延伸問題ですが、先の期成同盟会総会で13区の首長の一人である、田中久喜市長が会長に就任されました。このことは、蓮田市までの早期開通と同時に、そこから以北への延伸に陳情のポイントが移ってきていることだと思います。私も蓮田市、久喜市だけの問題ではなく、選挙区以外の交通網整備による発展が自分達の街も良くなることだということ認識して、これまで同様全力で事業化の陳情をしていくつもりです。今年の10月から11月には地域代表の皆様と、再び国土交通省を訪れたいと思っています。

災害に強く、安全で安心、快適な街づくりにこれからも取り組んでいく、土屋品子にご声援をどうか宜しくお願いします。



工事中の春日部駅構内

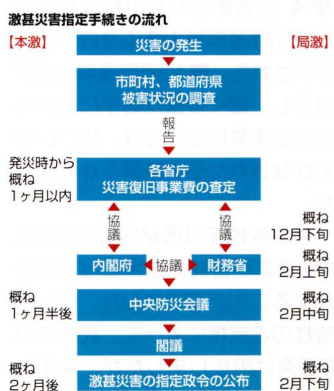
## ふくろう博士のワンポイント解説

**Dr. Fukuroh**  
先月、新潟、福島、福井3県で相次いで豪雨災害がおきたのはご存知でしょうか。小泉首相は、その視察を終えたとき、「激甚災害法」の適用にむけ、手続きを早めるよう指示した、と新聞やテレビなどで報じられた。今回は、この激甚災害法について簡単に説明し

## 激甚災害って何だろう？

よう。激甚災害法とは、ひどい豪雨や地震などの自然災害によって、国民生活に深刻な影響がでて、自治体で多額の財政負担が必要になった場合、国が復旧事業を財政的に支援するという制度じゃ。もちろん支援を受けるための手続きとして、その災害が国から激甚災

害として認められ指定されなければならぬのじゃ。国が被災地の災害状況を調査した上で、中央防災会議を開き、「激甚災害に対処するための特別の財政援助に関する法律」に基づく政令に従って指定するのじゃ。指定されると、災害復旧工事への国からの補助率が上がり、自治体の負担が軽くなったり、被災者が復興資金を借りるときに金利を引き下げられるなど借りやすくなったりするのじゃ。



## INFORMATION ボランティア さわやかボランティアを募集しています。

「土屋品子」とともに新しい時代のさわやかな政治を実現しましょう。土屋品子後援会ではあなたの参加をお待ちしています。

## 「さわやかキャンペーン」ミニ集会に土屋品子をお呼びください。

各地区でミニ集会を開催中です。どうぞ友人や仲間と一緒にご参加ください。また、ミニ集会に土屋品子をお呼びください。

## 国会の中に入ったことがありますか？

国会見学にお越し下さい。土屋品子の職場であり、国の法律が決まる場である国会に見学に来て下さい。友人・知人と一緒に、何人でも結構です。

**PROFILE 土屋品子 (つちやしなこ)** : 1952年生まれ。粕壁小、浦和南中、共立女子高を経て、聖心女子大学文学部歴史社会学科卒業。料理研究家、フラワーアーティスト、短大・大学客員教授。1996年10月の総選挙で埼玉13区より初当選。衆議院議員。現在3期目。厚生委員、法務委員、決算行政監視委員、青少年問題に関する特別委員会理事、衆議院憲法調査会、外務省大臣政務官を歴任。現在党国土交通専任部長、外務委員。他に、麻薬・覚せい剤乱用防止対策推進推進連幹事、日本エジプト友好協会理事、国会議員フットサルクラブ会長、対人地雷全面禁止推進連副会長、日本アイランド友好議連事務局長、日本カナダ友好議連事務局長次長。

**ご意見をお聞かせください。**  
【事務所】〒344-0062 春日部市粕壁東1-8-15  
Tel.048-761-0475 Fax.048-763-3475  
OWLS NET WORK <http://www.owls.co.jp/>  
E-mail : otayori@owl1.owls.co.jp